

小山御殿
 將軍日光社参の時、泊まる建物であった。家光が家康を日光に葬るために来たとき建てたもの。「東西百間余、南北五拾間余、北は小山城に接し、其余三方には保理を涅(ぼり)を穿ちて要害とす。御旅館の結構は御座間、御広間より御台所向に至るまで悉く備はれり。堀田筑前守御領りのとき延宝8年(1680)8月、大風にて御殿頗る損壊せしにより遂に廃毀せらる。元和(1615-24)より延宝までの間、御宿あらせられしすべて6回なりしといふ。今は御座の間跡を除地として、其余は一面に畑となり、外構土居の形のみ在り」(日光道中略記)

小山御殿発掘現場



評定所跡の碑

評定所跡の碑
 慶長5年(1600)7月24日、徳川家康は会津の上杉景勝を討つべく小山に到着した。このとき、石田三成が家康打倒の兵をあげたことを知り、翌25日、この地において軍議が開かれた(小山評定)。同年9月15日、関ヶ原の戦いで東軍(徳川方)の勝利となる歴史上重要な所。

愛宕神社(宮本町)



愛宕神社
 康暦元年(1379)小山義政の創建と伝える。石の鳥居は寛文7年(1667)のもの。境内にはケヤキや芭蕉門下の宝井其角の句碑などがある。

持宝寺

奈良時代に弓削道鏡が開基と伝える。もとは御殿跡付近にあったが、本多正純が祇園城を改修したときに現在地に移転したという。「もと小山家の祈願寺にて、そのかみ小山城の南(今の御殿跡)にありしを、慶長5年(1600)本田上野介の指揮によりて今の地に移され」(日光道中略記)享保13年(1728)4月15日、8代将軍徳川吉宗が日光社山時に休息所「有徳院様御小休所跡」とした。その時、栗毛の馬に乗り、稲葉郷の北の出口、上石塚村の掃除場に来たとき、掃除人足が平伏していたので「是より東に見える山は何山か」と尋ねると「筑波山です」と答え、「続いて見える山は何山か」と尋ねると「加波山です」と答えたと「絵図に印がある常陸国の筑波、加波山はあれなり、絵図の通りなり」と感心したといわれている。元禄2年(1689)に製作され、寛政4年(1792)再鑄造の梵鐘は戦時中に供出を免れた。

妙建寺



妙建寺
 建武元年(1334)の開基。本堂は享保2年(1717)の建立。格子天井には百人一首の絵と歌が59枚ある。中心には龍が描かれている。灯籠・手水石は小山宿の遊女たちが奉納した。

佐野の渡
 対岸に大行寺があるので「大行寺渡し」ともいった。

庚申塔
 寛政12年(1800)建立。エノキの大木と一緒にあった。小山宿から、思川を舟で渡り、佐野・栃木方面に向かう人々の道しるべで「左佐野道 右栃木道」と記されている。

清水坂
 小山宿から岩舟道・佐野道を思川の舟渡しに至る坂道。昔から坂の崖に沿って清水が湧き出ていることに由来する。

小山二小の辺は「感應寺」跡

小山宿南入口
 かつてこの付近が小山宿入口で、土塁や柵があった。青蓮寺堤 東西西北の三方に堤あり。いにしへ青蓮寺といへる尼寺の跡なりといふ」(日光道中略記)

小山大橋や鷲城趾へ行けることができる



旅籠 嶋屋の跡「此夜旅籠嶋屋林右衛門が老婆は、よく昔の事を覚えて居たり。また古書物をも持伝ふ。小山繁昌の時、新井印権守とて十六騎の頭役勤めたる者の末なりといふ」(日光駅見聞雑記)

古谷氏宅は旅籠屋「小倉屋藤十郎」跡。(五海道中細見独案内)

控本陣は現在の山本呉服店
 脇本陣跡
 西側の脇本陣は、唐破風の風格ある玄関がある。明治8年(1875)明治天皇の奥州巡幸の行在所で、入口に「明治天皇行在所」と書かれた石碑が建てられている。

常光寺
 応長元年(1311)に念仏堂として創建。門を入れて左に鐘楼、右に六地藏がある。二十三夜塔は町内の氏神。二十三夜塔の手前の手洗いの石の隣にある青銅製の像は戊辰戦争小山の戦いで幕府大鳥圭介軍の流れ弾の傷跡が台座後部に残っている。

問屋場跡
 日光・奥州・甲州道中宿村大概帳には問屋4人、年寄4人、帳付2人、馬差2人と記されている。問屋場は痕跡なし。

42 間々田宿 ~ 小山宿
 栃木県小山市
神鳥谷 ~ 小山宿
 (歩行距離 1841m 22分)
 歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
 JZE00512@nifty.ne.jp

20 小山一里塚

日本橋から20里の一里塚。持宝寺の参道、永島鋼鉄店と隣の家の中心で両塚には杉が植えられていた。日光・奥州・甲州道中宿村大概帳に「左右之塚共小山宿地内」とあるが、今は痕跡なし。

鷲神社
 鷲城址の中城部分にあり、城名のもとになったといわれる神社です。鷲城は天授6年(康歴2 1380)~弘和2年(永徳2 1382)の小山義政の乱の舞台となった中世の城郭。眼下に思川を展望する要害で、土塁や空壕、矢倉台・井土跡などが残されている。

須賀神社
 須賀神社
 小山66郷の総鎮守とされてきた。牛頭天王とも呼ばれ、藤原秀郷が天慶3年(940)に、戦勝祈願のため京都祇園社を勧請した。もとは小城内にあったが、本多正純が慶長6年(1601)に現在地に移した。石の鳥居は承応2年(1653)、小山町旦衆よる奉納で高さ4.1m。境内には七つ石(夜泣き石)がある。